

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500419		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	ジョイフル新那加 認知症対応型共同生活介護		
所在地	岐阜県各務原市新那加町28-2		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500419-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常的に運動プログラム等のアクティビティの時間を設けると共に、調理や掃除等の個別に応じた家事参加(できること)を通して、利用者様が張り合いや楽しみを持ち、身体機能を維持して頂ける生活づくりを支援しています。新型コロナ禍の中、施設内で楽しんで生活して頂ける行事(母の日には握り寿司を発注、夏にはスイカ割りやかき氷作り等を実施)を行い、季節に応じた壁画等の作品づくりや家庭菜園を行っています。職員一人ひとりが認知症に関する理解と知識を高め、利用者様の立場になって物事を考え、思いをすくい上げながら一人ひとりが安心して過ごして頂けるように取組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人が有する複合施設の一つであり、併設の利用者サービス事業所とは、防災・防犯の協力体制も整えている。新型コロナの影響を受ける前は、施設内の喫茶コーナーや陶芸教室に住民も参加する等、地域と積極的に交流していた。現在は休止中だが、コロナ収束後には再開予定である。職員は利用者の思いや意向を把握してケアに反映すると共に、その人らしい生活の支援に努めている。食事は三食手作りで、利用者は調理や配膳等できることを手伝っている。かかりつけ医の往診を受けながら、適切な医療支援体制で利用者や家族の安心・安全に繋がっている。看取りは行っていないが、重度化した場合のサポート体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所独自の理念を掲示している。法人の理念は毎朝の朝礼で読み上げ、事業所の理念については会議等で確認しながら意識付けを行い、実践に繋げている。	法人と事業所独自の理念を事務所に掲示している。法人の理念を朝礼で唱和し、また「地域と共に歩み続ける」という事業所の理念を職員で共有しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ禍により、地域行事への参加や地域ボランティアの受入れは現在行っていないが、以前は清掃活動や認知症カフェに参加したり、利用者と買物へ出かける等、地域とのつながりが確立していた。	以前は喫茶コーナーや陶芸教室への住民参加等、多様な形で地域とのつながりがあった。現在は新型コロナ感染予防のため、地域行事への参加やボランティアの受入れを中断している。収束後には、地域から要望があった認知症カフェをはじめ、従来のような交流を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ禍により、秋祭り等の施設行事に地域の方を招いたり、社協主催の介護予防教室等に参加する機会は無くなったが、広告紙やブログ等を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回実施しているが、今年度は新型コロナ禍により(市の指針に準じて)1回目は開催していない。2回目は11月に会議形式で実施し、行政や地域住民代表が参加予定となっている。	運営推進会議は従来は年3回開催し、利用者・家族も参加して、活動報告や意見交換を行っていた。今年度は行政の指針に従い、1回目は中止、2回目は参加者を絞って開催した。今後は感染予防対策をしながら開催する予定である。民生委員や地域代表とは電話で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新たな加算の算定や資料提出等の際には、市の窓口へ連絡したり、出向いて確認できる関係性を築いている。また、今まで運営推進会議には市の担当者が参加しており、常に相談できる関係がある。	行政とは、普段から利用者の状況や事故等の報告をしながら助言を得るなど、常に相談できる関係である。運営推進会議には行政の担当者が参加している。新型コロナの関連情報については、行政と連絡を取り合い、感染予防対策に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、原則身体拘束を行わない指針が掲げられている。身体拘束や虐待に関わる勉強会を年3回実施、身体拘束等適正化対策委員会を年に4回開催し、内容については共有する中で職員各々が身体拘束に対する理解を深めている。	身体拘束等適正化対策委員会を年4回開催している。ユニット会議でも取りあげ、共有しながら拘束や虐待をしないケアに取り組んでいる。また、併設施設とも共同で勉強会を開催し、拘束の弊害についても正しく学び、利用者の行動を制限することなく、寄り添う支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関わる勉強会を年3回実施し、参加していない職員も資料等を元に振り返りを行いながら、職員各々が虐待に対する理解を深めている。		

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を設けながら、制度に関する理解を深めている。併設事業所と連携し、利用者が安心してサービスを利用して頂けるように整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居前には利用者や家族に十分な説明を行い、理解を得た上で契約を開始(終了)して頂いている。家族からの相談や要望に応じて、他職種と連携しながら協議している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎のカンファレンスや年2回の満足度アンケートを通して、利用者や家族の意見や要望を確認・検討している。アンケートの結果については公表し、運営の改善に繋げている。	年2回のカンファレンスや満足度アンケート等で、利用者・家族の意見や要望を確認し、運営に反映するよう努めている。現在もコロナ禍にある事から、利用者と家族の不安が増しやすい状況であり、具体的な生活支援方法や感染予防対策について発信を増やすなど、相互理解を深められるよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員満足度アンケートを実施し、結果については公表し、運営に活かしている。個別面談も随時行い、可能な限り職場環境が改善されるように意見をすくい上げている。	ハウスマネージャーやリーダーは、日頃の業務の中で職員の思いや意見を聞いている。また、アンケートや個別面談も意見を出す場となっている。管理者は業務改善や物品の補給等の要望について検討し、より良い利用者サービスにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で有給休暇取得を推進しており、計画的に取得できている。職員一人ひとりに応じた教育システムが確立しており、本人のモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの目標設定シートを元に、各々が明確なビジョンを持って資質を高めることができるよう、教育システムが確立している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の為の支援体制も、整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のリモートによるTV会議や、(感染予防に配慮した)研修参加を通して、ネットワークづくりを広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には利用者本人と面談し、要望を伺っている。知り得た情報については職員で共有し、本人との関係構築の為に活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には十分な説明を行い、事業所の方針に関して理解を得た上でサービス利用を開始して頂いている。知り得た情報については職員で共有し、家族との関係構築の為に活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要なニーズを見極めながら、納得のいくサービスを受けて頂けるように関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場面に応じて、調理や掃除等の本人ができることを考えて実践し、継続して取り組んで頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者に担当職員がおり、担当者を中心に家族に連絡を行い、本人の状態報告や物品の依頼をしている。新型コロナ禍により以前のような面会受入はしていないが、希望に応じて窓越し面会やリモート面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍により、馴染みの美容室や喫茶店への外出やボランティアとの交流は無くなっている。毎月家族宛てに個別の便りを発送し、施設での様子について担当職員からのコメントや本人の写真、体重の推移等を掲載し知らせしている。	新型コロナ感染予防対策として、外出や友人・知人の訪問、ボランティアの受け入れを中止している。家族とは、リモート面会や窓越しでの短時間面会を行っている。家族宛てに、利用者一人ひとりの写真や体調報告、担当者のメッセージを載せた便りを送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の個性や利用者同士の関係性や相性を把握し、個別対応を重視した上でトラブルに至る前に職員がフォローできるよう、リビングでの席や食事の提供方法等、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談援助等を行っている。契約終了後は併設の事業所へ移られる方が多く、繋がりが継続している方も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話やご家族からの情報を元に、一人ひとりのニーズに応えられるよう、レクリエーションや家事等の個別支援を行っている。本人の発言を「つぶやき」として拾い上げて共有し、希望の実現に向けて取り組んでいる。	職員は、日々、利用者の意向や希望に添える支援に努めている。利用者の発言を「つぶやき」として拾い上げ、本人本位の支援を行うよう努め、ユニット会議で話し合いながら、支援結果も検証している。意思表示が困難な場合は、表情や行動から思いを汲み取り、より良い支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報資料や本人との会話、ご家族からの情報を元に把握し、現在の生活においても習慣を維持して頂けるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動観察を行う中で、その都度の心身状態に合わせて情報共有し、できる限り本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンス(6ヶ月毎)やモニタリング(3ヶ月毎)を行い、本人や家族の意向をくみ取りながら介護計画書に反映している。カンファレンスは家族の希望に合わせ、日程調整している。	年2回のカンファレンスは、日程調整をしながら、家族が出席しやすい日で開催している。介護計画は本人や家族の意向を組み入れ、専門職の意見を取り入れながら、関係者が話し合っで作成している。利用者のニーズに応じて、随時、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りシート等を活用し、情報共有している。個別の変化に応じ、ユニット会議にてケアの検討や振り返りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて、介護タクシーの利用手配や介護保険外での訪問介護支援事業所による受診同行手配等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ禍以前は、地域の清掃活動等の近隣行事や認知症カフェに参加し、地域資源との協働を図っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のニーズに応じて、入居前より通われていた病院への受診や、往診対応の支援を行っている。受診(往診)時には体温表(食事摂取量や排泄、睡眠状況等が記載)を元に、医師へ情報提供を行っている。併設事業所の看護師とも情報共有し、連携している。	契約時に、かかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。従前のかかりつけ医と協力医、歯科の往診を受けることが可能である。他科への受診は家族の協力を得ている。併設施設の看護師とも連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所に看護師が滞在している為、本人の日頃の状態を共有すると共に、状態変化に応じて連絡し、助言を仰ぐことができる関係性を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とこまめに連絡を取り合い、退院後の生活が円滑に進むように支援している。長期入院となる際も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には終末期の対応をしていないことの説明を家族に行い、理解を得た上でサービスの利用を開始して頂いている。本人の状態が重度化し、グループホームでの生活が困難になった時にどうされるか、カンファレンスの際等に確認している。	契約時に、終末期ケアを行わないことを説明し、利用者・家族の理解を得ている。状態が変化した場合や重度化した場合には、併設の他施設へ移行できるようサポートを行っている。急変時の希望搬送先を事前に確認し、緊急時には、全職員が適切な行動ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを元に緊急対応を定期的実施し、緊急時に初期対応できるように備えている。また、ヒヤリハットを共有し、危険予測を高めながら業務に臨んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、訓練に参加できなかった職員には資料回覧やユニット会議で申し送りを行う中で、災害時に対する意識強化と知識を身に付けている。	夜間想定を含め、年2回の防災訓練を実施している。職員は災害時における情報を共有し、防災意識を高めている。併設事業所とは、災害時の役割分担や協力関係ができています。十分な備蓄があり、災害時の献立表も準備している。停電対策については、法人全体で検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応の中で、慣れ親しんだ言葉かけが失礼や尊厳を失う行為に値しないよう、対応を心掛けている。マナー委員会があり、マナーや接遇に関する目標を掲げ、事業所全体で改善に向けて取組んでいる。	職員は、日々のケアの中で、利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。2ヶ月に1回のマナー委員会では、スピーチロックについても学び、振り返りを行いながら、目標を定め、適切な支援を行うよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるような雰囲気づくりを考え、取組んでいる。献立の希望を取り入れたり、レクリエーションでは選択肢を用意し、自己決定できる働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の体操や調理への関わり等、本人の体調や気分によって参加を拒まれた際は無理強いしていない。状況については記録に残し、情報共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望に応じて化粧品等を用意して頂き、女性でも髭の処理ができるように個別で対応している。新型コロナ禍により、ヘアカラー剤を使用して職員が定期的に対応している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片付け等、一人ひとりができることに取組んで頂いている。また希望に応じて献立に取り入れたり、魚が苦手な方には別メニューで対応している。おやつ作りを、定期的にご利用者と一緒に行っている。	食事は三食手作りで提供している。利用者も残存能力を活かしながら、出来る人が調理や配膳を手伝っており、包丁を再度使えるようになった人もある。また、おはぎなどのおやつ作りを定期的に行ったり、リクエストメニューにも応じるなど、食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方は、主食を計測し提供している。お茶があまりすまない方には、飲み物を変えたり、(家族に相談し)個別の飲料を用意して頂いている。毎身体組成を測定し、健康管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に自発的に歯磨きを行われる方、声掛けが必要な方、確認や介助が必要な方等、一人ひとりの状態に応じた関わりをしている。家族の希望に応じ、訪問歯科の手配を行っている。		

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、一人ひとりの排泄パターンを把握した上で介助が必要な方にはトイレ誘導をしている。紙パンツを使用している方もいるが、体調やADLを観ながら布パンツへの移行を積極的に検討し、実施している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して、状態に応じた支援を行っている。また、重度化を防ぐために、適切なタイミングの声かけ、こまめな支援により、状態が改善した利用者もある。各居室にはトイレがあるが、夜間は転倒予防のため、ポータブルトイレを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食は、全員にヤクルト1本と飲むヨーグルト100ccを提供している。日常的に運動の時間を設け、便秘気味な方には水分摂取や活動をすすめることや、医師に相談し内服薬で調整しながら予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂き、毎回お湯を入れ替えている。個別の希望に応じて湯温や水量を整えたり、入るタイミングにより業務を調整している。入浴剤や音楽を用いて、寛げる雰囲気づくりを大切にしている。	2日に1回の入浴支援を行い、利用者が清潔で気持ちよく入浴できるよう、一人ずつ湯を入れ替えている。また、利用者の状態に応じて、二人介助で支援をしている。入浴日に印をつけた顔写真付きカレンダーを各居室にかけ、利用者に入浴日が分かるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に応じ、室温や明るさ(室内の灯り)を整え、安眠されるように支援している。昼夜逆転傾向とならぬよう、日中の活動を考え、参加をすすめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を元に服薬内容の理解に努め、一人ひとりの状態に応じて(薬を手のひらに乗せる、口腔内へ直接入れる等)服薬介助している。処方箋内容については、併設事業所の看護師とも情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のレクリエーションや家事活動の参加、嗜好品の提供や季節毎の行事参加等を通して、めりはりや楽しみのある生活づくりを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響により行事外出は中止しているが、ベランダ散歩等を実施して外の空気に触れることで気分転換されるように取り組んでいる。また、家族とは希望に応じて窓越し面会やリモート面会を行っている。	以前は初詣、花見等の年間行事計画やモーニング、買い物等にも出かけていたが、現在は感染予防対策として、様々な支援を中止している。体操や回遊式ベランダでの散歩は継続しており、施設周辺の散歩も再開したところである。ポイント制で、運動やレクリエーションへの参加意欲をサポートしている。	現在もコロナ禍にあり、外出中止が長引き、利用者の心身両面への影響が懸念される。事業所は様々な工夫をしているが、今後も、さらに知恵を絞って、利用者の身体機能維持と意欲低下防止のための支援に期待したい。

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして入居時に(家族の同意の元)金銭をお預かりし、金庫で管理している。現在スーパーなどへ一緒に出向く場面はないが、希望に応じて職員が買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がおり、家族等とやりとりされている。毎月施設より家族へ便りを発送しており、本人にコメントを書いている。文字を書くことが困難な方は、職員が意向を伺い代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り(作品、生花)やソファを配置し、寛いで頂けるように整えている。ユニット間は自由に行き来できるように開放している。また空調やテレビ音、照明の明るさ等、職員主体ではなく利用者の意向を伺いながら調節している。	居間は広く、季節感のある作品や生花、小物類を飾るなど、家庭的な雰囲気であり、利用者は、ユニット間を自由に行き来できる。キッチンも、職員と利用者が一緒に作業がしやすくなっている。ゆったりくつろげるソファが設置され、清潔で居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は、一人ひとりの希望や他利用者との関係性や相性を考えて対応している。リビングで過ごされる方が多いが、部屋で休みたいと言われる方には休息して頂くように応えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前からの、使い慣れた物や馴染みのある物を用意して頂いている。家族の写真や昔の作品等を飾っている方もみえ、本人が安心して過ごして頂くことができるように整えている。	居室は広く、チェスト、洗面台、トイレ、エアコンが設置されている。利用者は、馴染みの家具を持ち込み、写真や小物を飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。床掃除は残存能力を活かして、できる範囲で利用者が行い、トイレと洗面台は職員が清掃を行い、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を行い、利用者が自己歩行される中で、動線に転倒等事故につながる可能性があるような危険な物が無いように環境を整えている。		